

学校 教育 目標	ともに学び合い 自分らしく輝く 日野の子 ～自分 大好き! 学校 大好き! 地域 大好き!～ ○ 自分の考えを深め、自ら学び続ける子どもを育てます。(知) ○ 互いのよさと違いを認め、高め合い、自分に自信をもてる子どもを育てます。(徳) ○ 命を大切に、たくましく生きる子どもを育てます。(体) ○ 地域を大切に、社会の変化に対応できる子どもを育てます。(公・開)				
	創立 150 周年 児童生徒数: 340 人	学校長 狩谷 浩史	副校長 鈴木 恭子	2 学期制	一般学級: 13 個別支援学級: 4
学校概要	主な関係校: 日野南中学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	○○中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<コミュニケーション力> <問題発見・解決力>	日野南中 小坪小 日野南小 日野小	多様性を尊重し、協働して高め合い、主体的・対話的に学び続ける子 ～コミュニケーション能力の育成～ ・人を思いやる心を育むために、挨拶運動に取り組む。 ・「主体的・対話的な学びの充実」をブロック授業研のテーマとして設定し、研究を進める。 ・児童生徒交流日で、6年生が中学校の様子を知り、進学をイメージする機会を設ける。

中期 取組 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで挨拶をし、思いやりの気持ちをもって、友達や地域の人たちと仲良く関わり合えるようにします。 ・スタンダードをもとに、一貫性のある指導を行い、よい生活習慣・学習習慣を身に付け、学力を向上させます。 ・活動の中で対話的な学びの場面を意図的に設け、コミュニケーション力を身に付けさせるとともに、互いのよさに気付くことができるようになります。 ・たてわり活動を通して、人間関係の幅を広げ、互いに協力し合い、豊かな心を育て、リーダーの育成を行います。 ・行事や学習活動などを通して、多くの方と関わり、地域や学校への愛着をもち、自分なりの地域貢献を考えられるようにします。 ・外遊びの推奨や体育科、委員会等の活動を通して、友達と体を動かす喜びを味わい、心身の健康を守り、体力向上を図ります。
----------------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知 担当 学力推進委員会	①「学習スタンダード」について共通理解し、統一した指導を行う。②スキルアップでは、基礎・基本の学習に取り組み、成果を実感できるものにする。学年に応じて少人数指導や習熟度別指導を行い、学習の定着を図る。③重点研で算数に取り組み、数学的な見方・考え方を働かせ、問題を発見し、解決する力を育む。考えの可視化する手立てを考える。
徳 豊かな心 担当 徳育推進委員会	①たてわり活動では、異年齢間の協調性を育成し、学年に応じた役割を責任もって行う力を養う。②いじめ防止をテーマにした人権週間の取組や、日常の人権教育を通して、互いのちがいを認め合える子どもを育成する。③児童会の取組や日々の指導を通して、進んで挨拶を行う子どもを育成する。
体 健やかな体 担当 徳育推進委員会・体育部	①学校保健委員会や委員会活動などを中心に、健康・衛生への意識を高める活動を実施する。②外遊びの推奨や、委員会活動による全校での運動週間の設定など、運動への意欲をもたせる。③体育科の体づくり運動や保健の学習などを通して、心身の健康や体力向上への関心を高める。
公 開 地域連携 課題解決 担当 教務部	①学習や地域行事の参加から学校が地域に協力できることを考え、積極的に地域と関わるようにする。②各地域の代表の方々と学校運営協議会の意義と役割を共有し、課題について話し合い、教育活動をさらに充実改善するための協議を行う。
いじめへの対応 担当 徳育推進委員会	①毎月のいじめ防止委員会を校長、副校長、児童支援専任、養護教諭、特別支援コーディネーター、学年主任が集まって行い、気になる児童について共有し、いじめの早期発見と組織的対応を行う。②年4回の「子どもの気持ちアンケート」で児童一人一人の現状を把握し、早期発見・解決につなげる。
人材育成・ 組織運営(働き方) 担当 教務部	①月1回メンター研修会を経験の浅い教員の指導力の向上を図る②学び支えあう職員集団を形成・発展させ、風通しの良い職場風土を維持し孤立化を防ぐことで、職員の心身の健康を維持する。③学年経営、保護者対応等に十分な時間を確保するために、会議の編制を工夫し、精選を図る。
特別支援教育 担当 特別支援コーディネーター	①個別の教育支援計画・指導計画を保護者と相談をしながら作成し、月に一度のケース会議をもとに定期季節でよりよい支援を進めていく。②特別支援についての校内研修を行い、理解を深める。全教職員、学校カウンセラー、SSW、関係機関との連携を取りながら、支援体制を整える。
児童生徒指導 担当 徳育推進委員会	①スタンダードを基本に全校で一貫した生活習慣の指導を行う。②毎月児童理解会議を開催し、子どもが抱える課題について全職員で共有し、保護者と連携しながら、課題解決に取り組む。③「YPアセスメント」を年2回実施し、結果を分析し、集団作りをはじめとした社会的スキルの向上を目指す。
a14 担当	b9
a15 担当	b10